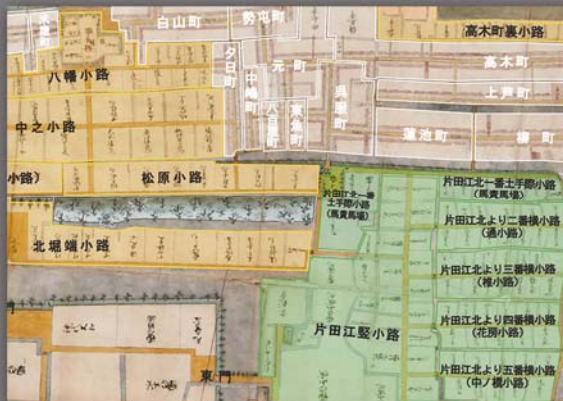


佐賀城下の土地台帳 待望の発刊!!

じょう か おお く る わ ない や し き ちょう
城下大曲輪内屋敷帳

江戸中期の元文5年(1740)に作成された、佐賀城下約1,000軒にのぼる武家屋敷の土地台帳を初めて活字化し出版。城下絵図と屋敷帳がセットで作成された唯一の現存例。絵図で城下を鳥瞰でき、屋敷帳で各屋敷地の大きさ、どこに誰が住んでいたかを把握できる郷土史探訪に最適の書。 A4版/321頁



佐賀城下の武家地は、「○○小路」や「○厨子」と呼ばれる100近い小地区に分けられていました。こうした小路の名称は城下絵図にも記されていないため、小路名やその範囲を知ることができる唯一の資料が屋敷帳なのです。その名残りが「中の小路」や「八幡小路」です。本書には、小路名とその範囲、町名とその範囲を図示した絵図も収録。

八幡小路南側 一 東入拾九間 一 西入拾八間七尺五寸	八幡小路南側 一 東入拾九間 一 西入拾八間七尺五寸	八幡小路南側 一 東入拾九間 一 西入拾八間七尺五寸	八幡小路南側 一 東入拾九間 一 西入拾八間七尺五寸	八幡小路南側 一 東入拾九間 一 西入拾八間七尺五寸	八幡小路南側 一 東入拾九間 一 西入拾八間七尺五寸
----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------

屋敷帳では各小路ごとに、1軒ずつ居住者名・屋敷地の東西南北の長さ・隣接する堀や道路の幅などを詳細に書き上げており、その総数は1,000軒近くにのぼります。まさに佐賀城下の土地台帳であり、どこに誰が住んでいたかが分かる名簿が屋敷帳なのです。例えば左のページでは、「八幡小路」の南側に「藪内宗也」が住んでおり、屋敷地の大きさも分かります。

¥2,500

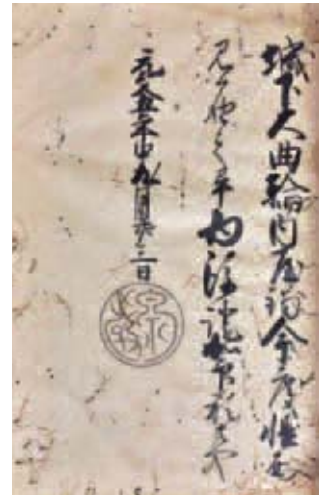
編集・発行 財団法人鍋島報効会

お問合せ・ご注文は
財団法人鍋島報効会(徴古館)まで
TEL・FAX 0952-23-4200
メール info@nabeshima.or.jp
〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22

城下人曲輪内座敷様



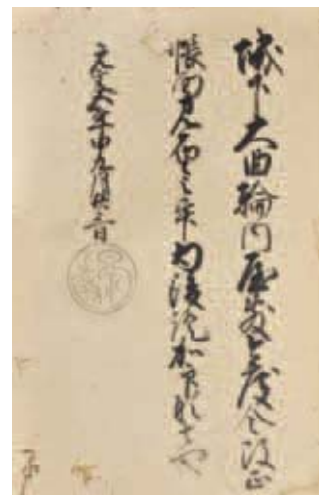
城下大曲輪内屋敷帳 3冊本(A群/鍋832-1)



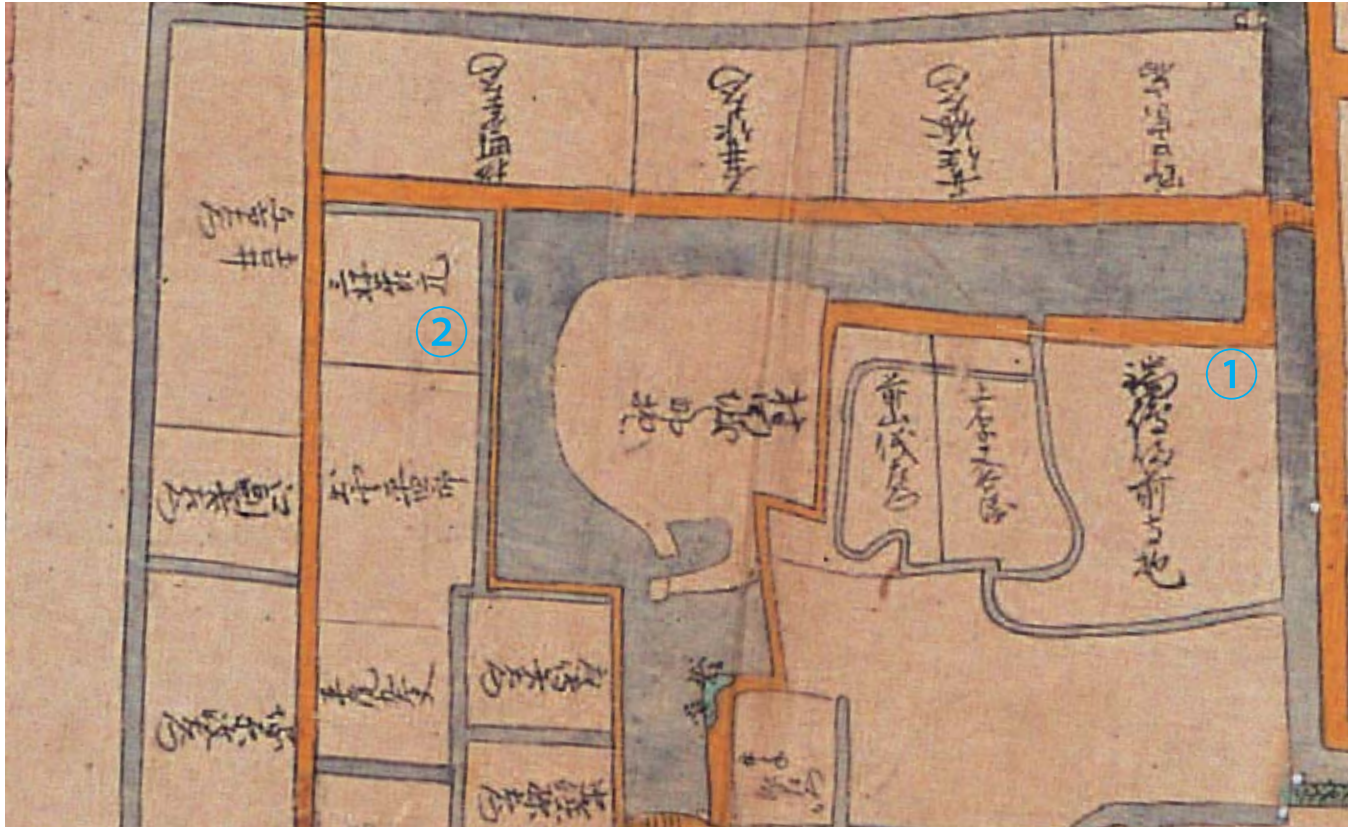
奥書



城下大曲輪内屋敷帳 5冊本(B群/鍋832-2)



奥書



元文佐賀城廻之絵図 元文5年(1740)

① 妙安寺小路

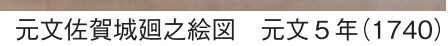
鍋嶋備前守拘^(抱)

- 但小路幅三間九尺
- 一 北口式拾六間
- 但南流堀幅東老間八尺西老間式尺
- 一 南裏 坤角^右東江式拾老間右^右筋違東江六間夫^右東式拾五間
- 但西北^二寄流堀幅老間
- 一 西入 乾角^右南折迄式拾四間老尺五寸右折^右西江三拾三間六尺夫^右南拾四間六尺右^右東江五間夫^右南拾六間六尺五寸
- 但東流川
- 一 東入五拾老間八尺五寸
- 一 巽角幅西三間式尺五寸東老間九尺長八間式尺五寸出所有

② 川原堅小路

諫早豊前家来
三好養元

- 但小路幅老間九尺
- 一 西口拾六間七尺五寸
- 但東堀幅老間長屋敷限屋敷^二付間尺之外
- 一 東裏拾七間老尺
- 一 南入拾八間老尺
- 但北堀幅東老間四尺西式間老尺長屋敷限屋敷^二付間尺之外
- 一 北入拾八間老尺



はじめに

平成二十一年度に新設されました文化庁の「美術館・博物館活動基盤整備支援事業」に、当会の「佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう！」が採択されました。四つの市民団体と連携しながら事業展開をする「地域連携強化事業」の一つです。

平成二十一年秋、本事業の一環として、当会が運営する博物館徴古館で「御城下絵図に見る佐賀のまち」展を開催し、「御城下絵図」の公開に踏み切りました。近世社会を反映する絵図として、一部に現在では不適切と考えられる表現があるために、寄託先で別置される永らく人目に触れることのなかった、当会所蔵の七種類の「御城下絵図」を公開できたことが、先ず一番の成果として挙げられるでしょう。

その結果、次の段階として、絵図の撮影・複製パネルの作製・現代の地図との重ね図の作製、さらに、武家地の「屋敷帳」や町人地の「竈帳」の複本の作製など、読み解き作業に必要な基本資料の整備を行いました。これら成果物はこの支援事業の賜物であり、展示やワークショップ、探訪会などで有効活用し、今後も継続して活用される優れモノとなりました。

さて、当会所蔵資料のうち、元文五年九月二十三日付の六代藩主鍋島宗教の黒印が押された「佐賀城廻之絵図」がありますが、同日付、同黒印の押された「城下大曲輪内屋敷帳」も伝存していました。これは絵図と屋敷帳が同時に作成され、セットで現存する唯一の貴重な資料です。この「屋敷帳」の解説・翻刻作業を昨年度実施しましたが、今年度に支援事業が継続採択されたため、このたび資料集として刊行の運びとなりました。本資料集を、読み解き作業などの基本資料として活用いただき、佐賀三十五万七千石の城下町としての歴史・文化の解明の一助となれば幸いです。

刊行に際しまして、文化庁をはじめとして、翻刻作業にかかわられた方々、その他関係各位に感謝の意を表します。

平成二十三年一月

目次

口絵		
はじめに		1
凡例		2
目次		3
解題		5
城下大曲輪内屋敷帳について		
片倉 日龍雄		5

翻刻史料（五冊本）

城内

北一通

北門通（北門小路）

北堀端小路

松原小路

中之小路

八幡小路

高木町裏小路

枳馬場小路

枳馬場北小路

町方

多布施村

大財村

東一通

片田江豎小路

片田江北一番土手際小路

片田江北より二番横小路

片田江北より三番横小路

片田江北より四番横小路

片田江北より五番横小路

片田江北より六番横小路

片田江北より七番横小路

片田江北より八番堀端小路

東田代今泉江湖端小路

東田代紺屋町通小路

東田代天神通横小路

東田代天神通横小路より南へ入厨子

東田代天神通横小路より今泉江湖端通

東田代南より二番横小路

東田代南より三番横小路

東田代東一番豎小路

東田代東より二番豎小路

東田代東より三番豎小路

矢矧町小路

矢矧町南へ入厨子小路

木塚小路

牛嶋町之内

牛嶋村

牛嶋新村

庄屋小路

牛嶋村之内高田村

牛嶋村之内今泉村

南一通

南堀端小路

中小路

中小路より西へ入厨子

宝琳院小路

宝琳院東横小路

鬼丸西豎小路

鬼丸南横小路

鬼丸東豎小路

鬼丸東豎小路より西へ入厨子

水ヶ江西一番南豎小路

水ヶ江西一番北へ入厨子

水ヶ江西より二番北へ入厨子

水ヶ江西より二番南豎小路

水ヶ江横小路

水ヶ江東横小路

水ヶ江東横小路西より一番南へ入厨子

水ヶ江東横小路西より二番南へ入厨子

水ヶ江北豎小路

水ヶ江慶雲院前横小路

水ヶ江大崎へ通小路

虎次豎小路

虎次西横小路

虎次東横小路

虎次東横小路より東へ入厨子

虎次東横小路南川端西へ入厨子

鷹師豎小路

鷹師西横小路

鷹師西横小路より東へ通

鷹師西横小路より北へ入厨子
鷹師下今宿へ通小路
安住小路

下今宿裏小路
下今宿堀端小路

西一通

西堀端小路
辻堂豎小路
辻堂豎小路より西へ入厨子
辻堂豎小路より東へ入厨子
川原小路堀端
川原豎小路
川原裏小路堀端
西田代豎小路
西田代横小路
生丹小路
本行寺小路
本行寺小路より西田端へ出筋
泰長院門前南北小路
精町小路
精町西横小路
精町東横小路
西精町ノ内
石長寺小路
石長寺西横小路
龍泰寺西小路
龍泰寺西小路より南へ入厨子

本庄通小路
妙安寺小路
与賀八丁馬場小路

翻刻史料（三冊本）

北一通

北門通（北門小路）
北堀端小路
松原小路
中之小路
八幡小路
高木町裏小路
枳馬場小路
枳馬場北小路
町方
多布施村
大財村

東一通

片田江豎小路
片田江北一番土手際小路
片田江北より二番横小路
片田江北より三番横小路
片田江北より四番横小路
片田江北より五番横小路
片田江北より六番横小路
片田江北より七番横小路

片田江北より八番堀端小路

東田代今泉江湖端小路

東田代紺屋町通小路

東田代天神通横小路

東田代天神通横小路より南へ入厨子

東田代天神通横小路より今泉江湖端通

東田代南より二番横小路

東田代南より三番横小路

東田代東一番豎小路

東田代東より二番豎小路

東田代東より三番豎小路

矢矧町小路

矢矧町南へ入厨子小路

木塚小路

牛嶋町之内

牛嶋村

牛嶋新村

庄屋小路

牛嶋村之内高田村

牛嶋村之内今泉村

南一通

南堀端小路
中小路
中小路より西へ入厨子
宝琳院小路
宝琳院東横小路
鬼丸西豎小路

鬼丸南横小路

鬼丸東豎小路

鬼丸東豎小路より西へ入厨子

水ヶ江西一番南豎小路

水ヶ江西一番北へ入厨子

水ヶ江西より二番北へ入厨子

水ヶ江西より二番南豎小路

水ヶ江横小路

水ヶ江東横小路

水ヶ江東横小路西より一番南へ入厨子

水ヶ江東横小路西より二番南へ入厨子

水ヶ江北豎小路

水ヶ江慶雲院前横小路

水ヶ江大崎へ通小路

虎次豎小路

虎次西横小路

虎次東横小路

虎次東横小路より東へ入厨子

虎次東横小路南川端西へ入厨子

鷹師豎小路

鷹師西横小路

鷹師西横小路より東へ通

鷹師西横小路より北へ入厨子

鷹師下今宿へ通小路

安住小路

下今宿裏小路

下今宿堀端小路

現存する佐賀御城下絵図と城下大曲輪内屋敷帳の意義

富田紘次……305

解題

城下大曲輪内屋敷帳について

片倉 日龍雄

佐賀城と佐賀城下町

佐賀城築城と城下町の形成については池田史郎氏の論考がある（藤野保編『佐賀藩の総合研究』第一章第三節、吉川弘文館、一九八一年）。すなわち、佐賀城建築は慶長七年（一六〇二）本丸台所から着工され、同一四年天守閣が完成し、同一六年総普請が完成したとされる。一方城下町については、「勝茂公譜考補」慶長一三年の記事「惣御家中屋敷町小路立、奉行鍋島市佑」から、このとき町割が行われたとして承応三年（一六五四）の「佐賀城廻之絵図」から小路名を割り出し、町名別武家屋敷の分布状況を明らかにされた。

近世城下町の都市構造類型について、松本豊寿氏は、町屋が団塊的に配置されている「団塊状町屋型」と、侍町と町屋が並列的に配置されている「街村状町屋型」に大別され、前者の代表として高知を挙げ、後者の代表として佐賀を挙げている（『城下町の歴史地理学的研究』吉川弘文館、一九七一年）。同氏は、「佐賀城下町では「小路」と呼ばれる侍町の外側を東、北、西の三方にわたり長崎街道をひき入れて長い街村状町屋で囲繞している」と佐賀の都市構造の特長を指摘されている。

佐賀城下町の形成と構成については、佐賀市教育委員会の調査報告書『城下町佐賀の環境遺産Ⅰ』（平成三年一月）に詳細な考証がなされているので参照されたい。

城下絵図・屋敷帳・竈帳

佐賀における近世城下町域の全体像を網羅的一覧的に把握する基本資料として、城下絵図、屋敷帳、竈帳がある。城下絵図は、藩主居城を中心に街路・水路（堀）・城内域・武士居住域・町屋域に分け、役所・武士住居・寺社については個別名を表示して、城下域全体を俯瞰することができる絵図資料である。屋敷帳は、主として武家屋敷および寺社敷地について屋敷地の所在位置および間尺明細を記録した文字資料である。竈帳は、町方地域について町ごとと各戸ごとの屋敷地・住人名・帰依寺・職業等を記録した文字資料である。

佐賀城下関係資料の伝来状況については次のとおりである。

城下絵図（城内図・個別町図を除き、後世写を含む）については、鍋島報効会所蔵の絵図は慶長年間、寛永三年（一六二六）、正保年間（一六四四～四七）、慶安二年（一六四九）、承応三年（一六五四）、元文五年（一七四〇）、文化年間（一八一〇年頃）の七期にわたって作成されており、写を含め十三点がある（詳細は、本書「現存する佐賀御城下絵図と城下大曲輪内屋敷帳の意義」を参照）。

屋敷帳については、元文五年（一七四〇）「城下大曲輪内屋敷帳」三冊

本丸

但石垣ハ根切土手ハ堀ノ内良方櫓台角ノ乾方天守西下段石垣角迄
一 北八拾貳間壹寸

内

但良方櫓台角ノ西折迄
四間壹尺貳寸

但右ノ南江折横手櫓台出端
壹間壹尺八寸

但右横手ヨリ太鼓門石垣角迄
貳拾六間四尺

石垣 高貳間三尺七寸敷東七間貳尺五寸石垣ハへ四尺壹寸
長三拾間五尺貳寸敷西四間四尺三寸但間尺之内

但太鼓門石垣角ノ南石垣迄
拾間六尺六寸

但太鼓門ノ天守台石垣迄
貳拾四間五尺九寸

石垣 高貳間三尺七寸敷西七間東四間四尺三寸
ハへ四尺壹寸長三拾間壹尺

但天守台北ノ出端
四間五尺三寸

但天守台東西ノ間敷
拾六間六尺三寸

但天守台乾角出端
四間五尺

但天守台ノ西櫓石垣角迄
拾三間貳尺七寸

天守台 高四間五尺五寸ハへ壹間五尺東西
拾三間三尺南北拾五間四尺五寸

同下段 高貳間三尺三寸ハへ三尺四寸東西
拾四間四尺壹寸南北拾壹間四尺

但良方櫓台ノ南堀限
一 東九拾四間六尺壹寸

内

但良角櫓台ノ南折迄此間石垣高貳間三尺七寸長上貳拾壹間六尺壹寸櫓台北出端壹
間壹尺八寸加テ
貳拾壹間六尺壹寸

但東江折堀通
七間五尺

但右折ノ南異角迄堀通
七拾三間

土井 高壹間貳尺敷六間四尺
但堀内ハへ間尺之内

但異角堀際ノ西矢藏台角迄
一 南九拾貳間五尺五寸

内

但異角ノ中折迄堀通
三拾六間

但中ニ而北江折堀通
九間四尺

但中折ノ西櫓台出端迄
四拾八間五尺五寸

但右ノ南江折櫓台出端間敷
貳間

但右折ヨリ櫓台坤角迄
八間

土井 高壹間貳尺敷六間四尺堀ノ内敷四間壹尺
但間尺之内外貳間三尺間尺之外

但坤方櫓台角ノ北天守下段石垣角迄
一 西七拾三間九尺五寸

内

但坤方矢藏台角ノ同北出端迄
六間三尺五寸

但右ノ東江折出端間敷
貳間壹尺

但右ノ北天守下段石垣迄道幅壹間壹尺加
テ
五拾五間壹尺

但天守西下段石垣間敷
拾貳間五尺

天守北曲輪

但南石垣際ノ北堀際迄
一 西拾九間

但南ハ天守台石垣際ノ北堀際迄
一 東拾五間

但小路幅四間

一 南口式拾貳間五尺五寸

但北流堀幅九間五尺

一 北裏式拾間五尺

一 東入三拾三間

一 西入三拾三間

馬場庄右衛門

但南道幅三間五尺

一 南入式拾三間壹尺

但北流堀幅拾壹間貳尺

一 北入式拾七間貳尺

從西到東

松原小路

但小路幅三間七尺五寸

一 南口式拾壹間

但北流堀幅東拾貳間四尺五寸西拾間五尺

一 北裏式拾貳間

一 東入三拾三間

一 西入三拾三間

木下四良兵衛

但小路幅貳間貳尺

一 南口式拾七間三尺五寸

但北流堀幅東貳間三尺西壹間五尺五寸

一 北裏式拾七間五尺

但東道幅四間貳尺

一 東入三拾間

但西堀幅六尺五寸長屋鋪限屋鋪ニ付但杖内

一 西入式拾八間八尺

犬塚奎之允

相良求馬

但小路幅三間七尺五寸

一 南口式拾貳間七尺

但北流堀幅拾貳間四尺五寸

一 北裏式拾四間七尺五寸

一 東入三拾三間七尺

一 西入三拾三間七尺

綾部權之丞

但小路幅貳間四尺

一 南口式拾四間九尺三寸

但北流堀幅貳間

一 北裏三拾四間七尺三寸

但東堀幅壹間三尺長北拾間六尺屋鋪ニ付但杖内

一 東入式拾九間七尺五寸

但西道幅四間貳尺

一 西入式拾九間七尺五寸

深堀孫六

多久勘助

但東流堀幅四間三尺五寸小路幅三間七尺五寸

一 東口 翼角北江拾三間八尺五寸右江折

但西堀幅貳間三尺五寸長屋鋪限屋鋪ニ付但杖内

一 西裏三拾四間二尺

但北流堀幅三間七尺

一 北入九間八尺

一 南入拾間六尺

但小路幅壹間八尺

一 西口八間三尺五寸

但東流堀幅貳間

一 東裏九間

一 北入拾間六尺

一 南入拾間九尺

一 物成屋鋪四畝貳步

一 物成屋敷四畝五步

一 同壹畝貳拾三步

一 同壹畝貳拾三步

虎次豎小路西側

從北到南

但小路幅三間八尺

一 東口三拾間六尺五寸

但西流堀幅貳間

一 西裏拾七間六尺

但北堀幅西壹間三尺東壹間

一 北入艮角 b 西折迄六間右折 b 南江六間七尺夫 b 西貳拾六間

但南流堀并三間四尺

一 南入三拾間三尺

蒲原次右衛門組手明鍵

千布惣右衛門

袋村之内

郷地

袋村之内

郷地

右同斷

右同

右同斷

右同

深江六左衛門^抱拘

但小路幅三間四尺

一 東口三拾三間八尺

但西流堀幅貳間

一 西裏三拾七間貳尺

但北流堀幅三間四尺

一 北入三拾間

但南流堀幅貳間

一 南入貳拾八間八尺五寸

但小路幅三間貳尺五寸

一 東口貳拾九間

但西流堀幅壹間九尺

一 西裏貳拾九間壹尺五寸

但北流堀幅貳間

一 北入貳拾八間貳尺

但南流堀幅西貳間五尺東壹間六尺

一 南入貳拾七間貳尺

但小路幅三間四尺

一 東口貳拾七間

但西流堀幅貳間

一 西裏貳拾三間四尺五寸

但北流堀幅西貳間五尺東壹間六尺

一 北入貳拾八間貳尺

但南道堀幅三間

一 南入貳拾六間七尺

但小路幅三間四尺

一 東口貳拾四間壹尺

但西流堀幅壹間四尺

一 西裏貳拾四間八尺

下村七右衛門

中嶋弥大夫

城嶋立安

増田常右衛門

現存する佐賀御城下絵図と城下大曲輪内屋敷帳の意義

富田 紘 次

はじめに

御城下絵図の現存状況

佐賀は、鍋島藩三十五万七千石の城府である。近世都市としての佐賀城下の建設は天正年間ころに始まるとされ、『勝茂公譜考補』によれば天正十九年（一五九一）には^{かきひさ}斬久（現佐賀市鍋島町）の町人を城下に誘致している¹。慶長十三年（一六〇八）には鍋島直茂・勝茂父子による佐賀城総普請が始まったのに伴い、城下も本格的に形成され始めた²。この佐賀城下を表した地図が佐賀御城下絵図であり、都市計画段階と見られる慶長期をはじめとし、寛永、正保、慶

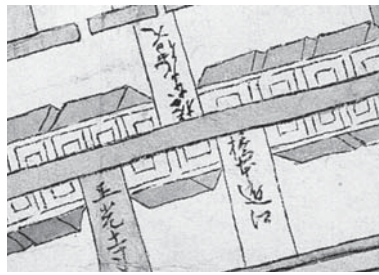


図1 長瀬町の橋本家
(元文佐賀城廻之絵図)

安、承応、元文、安永、文化の八期にわたる絵図が現存している。

これらのうち、旧佐賀藩主鍋島家には近代になって取り入れたものも含め、安永期を除く七期（十三点）の御城下絵図が伝来し、現在は他の藩政資料や什器類などと共に財団法人鍋島報效会（以下、当会と称す）に寄附されている。

御城下絵図の基礎知識

佐賀城下を知る手掛かりとなる絵図類として、城内や町人地、重

臣の屋敷地内など、城下の特定地区のみを表した絵図も残されているが、本論では城下全体を表す絵図のみを扱う。こうした絵図の呼び名としては、「御城下絵図」と「佐賀城廻之絵図」の二種があるが、総称としては御城下絵図とよぶ。

御城下絵図の特徴を大きく三つ挙げると、第一に城下の武家地（小路）における住宅地図と言える。すなわち、大まかに言って武家地と町人地の二区で構成される城下のうち、武家地に限り一軒ごとの屋敷割りを墨線で表し、各屋敷地内に居住者名、役所名、寺社名などを記している³。

第二に、武家地以外の地域について述べておく。町人地については各期の絵図とも基本的には居住者名や屋号を記さず、模式的な家形を描くことで町屋が連なる様子を表現し、町名を表記するにとどまっている。ただ例外的に、御刀鍛冶として長瀬町で作刀にあたった橋本家【図1】や岸川町で活躍した甲冑師の春田屋（宮田家）の屋敷地などが記載されるほか、早い時期の絵図には一部に町人名の記載も認められる。また城下の周縁部には、武家地でもなく町人地でもない郷地^{ごうち}の一部が含まれており、ここにも早い時期の絵図には例外的に「百姓」という記載や具体的な百姓の名前が記されている



図2 百姓の記載
(慶長御積絵図)

現存する佐賀御城下絵図一覧

No.	名 称	点数	原本／写本	原図年代	書写年代	法 量 (cm)	所蔵先	備 考	古地図 絵図録No.
1	慶長御積絵図	一幅	写本	慶長十五年(一六一〇)頃	江戸後期	竪一四九 横二五二	財団法人鍋島報効会	鍋島安房の朱字方印あり	一四四
2	寛永御城并小路町図	一舗	原本カ	寛永三年(一六二六)	―	竪一〇七 横二六一	財団法人鍋島報効会		一五七
3	正保御城下絵図	一幅	写本	正保年間(一六四四～四七)	天保三年(一八三二)	竪一〇五 横一五五	財団法人鍋島報効会		
4	正保御城下絵図	一舗	写本	正保年間(一六四四～四七)	明治二十二年(一八八九)	竪一一〇 横一五八	財団法人鍋島報効会	天保書写本をもとに再書写	一四六
5	慶安御城下絵図	一舗	原本カ	慶安二年(一六四九)	―	竪一二二 横三〇七	財団法人鍋島報効会		一五六
6	慶安御城下絵図	一舗	写本①	慶安二年(一六四九)	江戸中期カ	竪一二五 横三一五	財団法人鍋島報効会		一四九
7	慶安御城下絵図	一舗	写本②	慶安二年(一六四九)	江戸後期	竪一二五 横三二五	財団法人鍋島報効会	鍋島安房の朱字方印あり	一四八
8	承応佐賀城廻之絵図	一幅	原本カ	承応三年(一六五四)	―	竪一二〇 横三一〇	財団法人鍋島報効会		一五一
9	承応御城下絵図	一舗	写本	承応三年(一六五四)	江戸後期	竪二〇七 横二九六	財団法人鍋島報効会	鍋島安房の朱字方印あり	一五〇
10	承応佐賀城廻之絵図	一舗	写本	承応三年(一六五四)	安政二年(一八五五)	竪二二三 横三一四	個人	初代藩主勝茂の奥書も書写	
11	元文佐賀城廻之絵図	一舗	原本	元文五年(一七四〇)	―	竪二二二 横二九〇	財団法人鍋島報効会	六代藩主宗教の奥書が付属	一五四
12	元文御城下絵図	一舗	写本①	元文五年(一七四〇)	弘化三年(一八四六)	竪二二二 横二八三	財団法人鍋島報効会	六代藩主宗教の奥書も書写	一五三
13	元文御城下絵図	一舗	写本②	元文五年(一七四〇)	江戸末期	竪二三〇 横二八八	財団法人鍋島報効会	鍋島安房の朱字方印あり	一五二
14	元文御城下絵図	一舗	写本	元文五年(一七四〇)	江戸後期カ	竪二〇九 横二七三	武雄鍋島家資料・武雄市		
15	安永御城下絵図	一舗	原本カ	安永二三年(一七七三～七四頃)	―	竪一〇七 横一三五	長崎歴史文化博物館		
16	文化御城下絵図	一幅	写本カ	文化年間(一八一〇年頃)	江戸後期カ	竪一〇二 横一四二	財団法人鍋島報効会	鍋島安房の朱字方印あり	一五五

※古地図絵図録No.は、『古地図絵図録』(佐賀県史料刊行会、一九七三年)郷土の部の通し番号を示す。

城下大曲輪内屋敷帳

平成二十三年（二〇一一）三月

発行 財団法人鍋島報效会

佐賀県佐賀市松原二丁目五―二二

TEL／FAX 〇九五二―二三―四二〇〇

URL：http://www.nabeshima.or.jp

印刷 ㈱佐賀印刷社

